

2025-03-30

ふじさわ・九条の会ニュース



No.78

発行人 ふじさわ・九条の会事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP(ホームページ) <https://fujisawa9jo.org>

検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。



日本国憲法 第2章 戦争の放棄

第9条 ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

2期目のトランプ米大統領就任と今後の世界情勢の行方 小林 麻須男

1月20日、米国、第47代大統領にトランプ氏が就任した。4年ぶりに政権に返り咲いたトランプ氏は、就任演説で「米国第一主義」を掲げ、パリ協定離脱・WHO脱退、などを宣言した。世界が地球温暖化やコロナで困っている時に、世界との協調から離れ、米国独自の道を歩もうというものである。地球全体の温暖化が進む中で、世界各地で山火事、洪水、異常気象、北極圏の氷河の崩壊、南洋の島々の海水面の上昇による島々の水没などが起こっている中で、アメリカ第一で、石油は掘って、掘って、掘りまくれ、ガソリン車は造って、造って、造りまくれ、で良いものか。世界で、中国に次いで大量の二酸化炭素を放出しているアメリカが、環境問題に背を向けるなどと言うことは許されない。

さらに、外交面でもトランプ氏は、国際的にも定着しているメキシコ湾をアメリカ湾と改称することや、1999年に全面返還したパナマ運河をアメリカが造ったものだから「取り戻す」などと言ったり、デンマーク領であるグリーンランドをアメリカが領有、さらにカナダの領有など法外な要求を口にしたりにしている。また戦争を終わらせる為に、パレスチナガザ地域のアメリカの領有、ロシアの侵略を認めるようなウクライナ問題の解決案

等を示し世界の輦蹙(ひんしゆく)を買っている。

また、アメリカを中心とした世界の軍事同盟網を維持する為と称して、NATO加盟国に対し、軍事費を国内総生産比5%に引き上げるべきだと表明。日本に対しても「軍事費を3%程度に引き上げる必要がある」と述べている。こうしたアメリカ政府の要求に対し、日本政府は相変わらず米国に追従する姿勢をとっている。

こうした環境問題でも、軍事問題でもトランプ政権の圧力が強まる中で、日本政府の弱腰を正す道は何か。確かに米国は世界に大きな影響力を持っていることは事実であるが、何でもアメリカの思いどおりに動いているわけではない。戦後、アメリカは朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラク戦争などいくつかの戦争を起こしてきたが、日本はいずれも派兵を断ってきた。それは、日本には戦争放棄の憲法9条があったからであり、時の自民党政政府自らも海外派兵を断ってきたからである。そして日本国民が、戦後80年間一貫して憲法9条を支持し、核兵器、核戦争に反対する平和運動を続けてきたからである。トランプ政権の下で、世界的な環境破壊、軍備増強の動きが続くだろうが、私達はこれまでの運動に確信を以て、世界の人々と共に、平和運動、環境運動を続けてゆく必要がある。

ふじさわ・九条の会20周年記念 憲法9条は世界の宝



『戦争をしないと誓った憲法と私たちにできること』

講師：伊藤真さん 弁護士・伊藤塾(法律資格受験指導校)塾長

日時：5月10日(土) 13:30~16:00 会場：藤沢市民会館 小ホール

第一部「鈴鹿音神太鼓」(長野県御諏訪太鼓伝承チーム) 第二部 伊藤真さん講演

トランプのアメリカ「あんたは交渉カードを持っていない」

毎日新聞記者・國枝すみれ



「あんたは交渉カードを持っていない」。トランプ米大統領は2月28日、ホワイトハウスに招いたウクライナのゼレンスキー大統領に怒鳴った。

ウクライナには米国の支援が不可欠なのは事実だ。だが、米大統領は「支援と引き換えに地下資源をよこせ」と圧力をかけたうえで、「黙って言うことを聞け」と命じたのだ。

それだけではない。バンス米副大統領は2月14日、独ミュンヘンで開かれた欧州安全保障会議で「欧州に対する一番の脅威はロシアや中国ではなく、欧州の内側にある。米国と共有する根源的な価値観から後退していることを懸念している」と言い放った。欧州は「表現の自由」や「宗教の自由」を制限している、と非難する米副大統領に、列席していた欧州の指導者はぞっとしたと思う。

私たちは恐ろしい現実直面している。西側の共通の価値観から離れていくのは、欧州ではなく米国だ。世界の警察官であることを止めた。それどころか、ロシアと同様に力による国境変更自ら乗り出す勢いだ。

トランプ大統領は「プーチン露大統領は平和を求めている」と本気で信じているらしい。ロシアは中国やイランと同様、常に西側陣営の分断を煽り、国際世論を味方につけようと偽情報を流して情報操作をしている。にもかかわらず、米国防総省は2月、対露サイバー工作を停止した。

我々が記憶しているアメリカ、寛容なアメリカは、もうなくなった。腕っぷしが強く、正義感に溢れた親は死んだ。日本は孤児となり、西欧やカナダなど幾つかの兄妹とともに、危険な路上に取り残されたのだ。

なぜこんなことになったのか。理由は大きく2

つある。まずは偽情報の蔓延だ。トランプ氏は自分を批判する新聞やテレビなど伝統的なメディアを「(偽情報を流す)フェイクニュース」と呼び、正当性を傷つけた。自分に対してどんな報道がなされても、国民が信じなくなるように仕向けた。

トランプ支持者(MAGA)はもう新聞やテレビをみない。トランプ陣営や友人・知人が流すSNSをシェアし、右派識者のポッドキャストをみている。1月6日の議会議事堂乱入は「平和的なデモで、反乱ではなかった」と真顔でいう。リベラル側も同様で自分が信じる言説に合致しない事実を認めない。左右双方が「もう何も信じられない」という。

第二の理由は、米国人自身の変化だ。格差拡大が止まらない米国で、中間層や労働者層は疲れて、内向きになっている。MAGAは、世界の警察官でいることは「重荷」と思っている。同盟国は「米国を鴨にしている」と怒っている。本来は自分たちに使われるべき税金が移民や外国人のために使われている、と憤慨している。

米国の衰退は止まらない。4年後に民主党が政権を取り返したとしても、米国民が偽情報とプロパガンダに脆弱な状態にあることに変わりなく、格差も縮小しないからだ。それどころか、ファクトチェックなど偽情報対策は弱まり、政府、選挙、政党、司法、メディア、教育といった民主主義を支えてきた制度すべてに対する米国民の信頼が落ちている。不信は偽情報の温床だ。

米国人の変化も止まらないだろう。AI開発で世界中の富を握りしめても、恩恵をうける人口はごく一部だ。少数が支配するオリガークー（寡頭政治）下で社会の不満は高まり、訴訟や暴動、さらには、暗殺などの政治的暴力が起きるリスクが上昇する。そうなれば、投資もイノベーションも減るだろう。

日本は第二次世界大戦後、米国が作った世界の枠組みの中で生きてきた。日米同盟を念仏のように唱え、米国が守る自由貿易市場で繁栄する道を選んだ。米国への最大の投資国でもある。だが、米国依存をやめる時が来た。

ある外交官は「日本は米国のように大計画を作ったことがない。作れない」といったが、私たちは生き残るためにプランBを作らなくては行けない。

「湘南平和憲法の碑」について

吉塚晴夫

標記の碑を建立する会が、この6月完成を目指して資金集め等に奔走している。私たちふじさわ・九条の会は碑の建立趣旨に深く共感し、応分の資金協力を行い、また個々の会員が実行委員として活動している。憲法9条の碑は2024年末で全国に50基となったそうである。(赤旗2025.1)

何故このような碑が全国に必要であり、今後も更に造られなければならないか。それは歴史を忘れない為、忘れさせない為である。

「地震と虐殺1923～2024」について



朝鮮人労働者追悼碑の撤去のため、代執行開始宣言を読み上げる群馬県職員＝群馬県高崎市の「群馬の森」で(県提供)

少し前に「地震と虐殺1923～2024」安田浩一(中央公論社)という600ページに及ぶ本が刊行された。著者の安田氏は「ネットと愛国 在特会の闇を追いかけて」「団地と移民」「ヘイトスピーチ 愛国者たちの憎悪と暴力」などの著作をもつライターである。

「地震と虐殺」は 1923年9月1日、関東大震災時の朝鮮人、中国人、障害者、労働運動家らの虐殺が行われた東京、千葉、埼玉、群馬、横浜など現場を歩き、虐殺をなかったものにしてしようとする権力の策動と、それに抗う市民の運動を追ったルポルタージュである。

虐殺の歴史事実は誰によって掘り起こされてきたか。100年後の現在、何が変わり、変わらないものは何か。人災を天災と言い繕う政治家、差別行為を容認する行政など、差別やヘイトクライムの問題を長年追及してきた著者が100年前と現在を往還し、虐殺事件を巡る様々な風景を描いていく。そのような本書の中での「群馬の森」朝鮮人労働者追悼碑の撤去事件に拠りながら、碑が何故必要なのかを考えよう。

『2024年1月29日、朝鮮人労働者追悼碑は県の代執行によって重機で粉々に粉砕された。

高崎市の県立公園「群馬の森」に、市民団体が朝鮮人犠牲者を悼む目的で追悼碑が設置されたのは2004年。市民団体の請願を県議会が全会一致で採択したことによる。当時は保守系会派も含めて反対する県議はいなかった。異変が起きたのは2014年のことである。碑は10年ごとに使用許可が更新される予定だったが、県は突然更新を認めず、追悼碑を管理する市民団体に撤去を要請したのだ(県知事は山本一太である)。

歴史否定と人種差別活動を展開してきたレイシスト集団は、碑が「反日的」であるなどと主張。県議会会派へのロビーイングを行うと同時に、県担当部局への抗議、市民団体への攻撃を繰り返してきた。

県の処分を巡っての裁判で、22年6月最高裁は「憩いの場としての公園にあるべき施設としてふさわしくない」とする県の主張を認めた。裁判所は「騒いだ者勝ち」の判断を下したのだ。』(『内は本書による)

行政、議員らによる歴史の隠蔽、捏造

在日外国人へのヘイト団体と行政、裁判所までが手を組んで、虐殺の歴史をなかったことにしたのである。群馬だけではない。都知事小池百合子による朝鮮人犠牲者追悼式典への追悼文の発出拒否、それに勢いを得たヘイト団体による、横網町公園での追悼式典の妨害行為など行政、議員らも加担した歴史の隠蔽、捏造行為が現在も行われている。

それらを黙認することは、川崎や埼玉での在日韓国朝鮮の人々、クルドの人々へのヘイト行為の頻発に繋がっているのではないだろうか。今年は戦後80年そして稀代の悪法治安維持法施行100年である。入管庁の被収容者に対する虐待と、難民申請者への日常的な人権侵害を見れば、日本の入管行政が嘗ての治安維持法による、在日外国人への過酷な処遇を引き継いでいることが伺われる。

改めて湘南平和憲法の碑について

上記群馬の森での追悼碑撤去の過程を見れば、権力による歴史の隠蔽捏造行為を許さない象徴として、平和憲法の碑は存在するのだと考える。憲法9条が存亡の危機にある今こそ、碑は建設されなければならないのだ。

悪法・無法・正義の法

— 「大石誠之助の生涯」・「太平洋食堂」を読んで—

飯田玲子

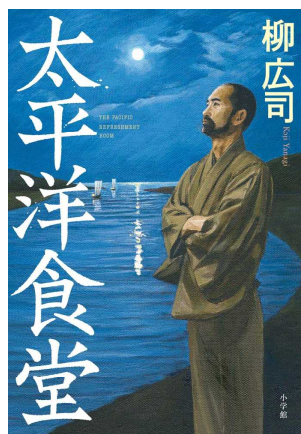
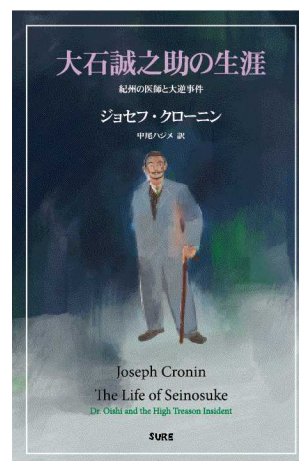
二〇二四年八月、ジョセフ・クローニン著・中尾はじめ訳「大石誠之助の生涯 紀州の医師と大逆事件」が、編集グループSUREから出版された。

クローニンは詳細な資料を基に、変わり者の父親、教会を建て熱心なクリスチャンである兄、従弟で後、文化学院を創設した西村伊作などを紹介しながら、大石の一生を詳細に語って呉れる。

しかし、私のこだわりとして心に残ったのは、一九一〇年、「刑法七三条違反」容疑者として逮捕され、翌一年に一人の仲間とともに処刑されるまでの裁判における検事とのやり取りであり、又、裁判のために、今村力三郎弁護士に宛てて書いたといわれる長文の手紙の内容であった。

その中で、特に心に引っかかったのは「自分にとっての社会主義というのは趣味であり、道楽である」という一文であった。

私にとっては趣味とは「趣味にすぎない」とか、「趣味的」と言われるように俗に無責任な遊びに近いものとして捉えられていた。



その疑問を持ちながら私は次に、柳広司氏の書かれた「太平洋食堂」(小学館)を読んだ。

「太平洋食堂」とは大石がアメリカから帰ってから、本業の医師をしながら、故郷新宮に開いた食堂の名であり、明治時代の背景や群像とともに大石の生涯が、書かれている小説である。

私はその本で、大石とその他の人々の肌触りや体温まで感じる事が出来た。

その中で、大石の、弱いもの、虐げられているものへの本能的ともいえる優しさを発見した。知識・意識でもっと深めることもできるだろうがそれ以前の、その人の生来持っている本質的なもの・・・肉体化されている思想と言ったらいいか・・・

それを理解した時、大石の敢えて使った「趣味」という意味を理解できたと思った。

私の関心の持ち方は些末にすぎるとは思えない。

この二冊の本を読んで、学んだことは、「人の内心の自由にならざるにまで侵入してくる余地を持つ法律」の危険である。治安維持法しかり！共謀罪しかり！

「これらは現場の運用次第でどうにでもなる法律である」と柳氏も書いておられる。最近、「検証 治安維持法」を出された荻野富士夫氏も「悪法は法にあらず」と言っておられる。

一方、アメリカの大統領トランプは、「少数者の人権、多様性など、やっとならざるに近づきつつある世界の良識」に対し、無法ともいえる発言・行動を繰り返している。

「悪法」は市民にとって迷惑この上もないことだが「無法」も また、迷惑千万なものである。

大石の故郷新宮では二〇一八年、大石誠之助を名誉市民とする決議をしたようだ。

歴史はすんなりと動くものではなくジグザグと矛盾を孕みながら、現在も蠢動(しゅんどう)中である。

「悪はゆっくり忍び寄り、気づいたときは手遅れだ・・・(中略)・・・抵抗しつづける」というポーランドの人の言葉を今朝の新聞で見た。

ふじさわ・九条の会はささやかながらその戦列に加わり、「正義の法」を守るための活動を続けている。

《お願いとお知らせ》

- ① 湘南平和憲法の碑を建立するためのご支援のお願い(別紙チラシ参照)
同封の振込用紙で振り込み、またはエコスタアパパラギにお届けください。
- ② 大軍拡反対請願署名・・・返信用封筒に入れて返送してください。
税金はくらしの充実に 戦争準備の軍拡は中止して、
憲法、平和、いのち、くらしを守る政治への転換を求める請願署名
- ③ 5月3日(土)藤沢での憲法街頭行動
5月3日(土)12時～13時 藤沢駅南口2F江ノ電への通路
- ④ 2025憲法大集会 5月3日(土)有明防災公園 メインステージ13時～(別紙チラシ参照)

